

蔵書点検のため休館します

休館期間:2月13日(火)~22日(木)

休館中は、館内にある全資料の点検を行います。
長期休館に伴い、貸出冊数・貸出期間を拡大します。



- *1月30日(火)~2月12日(月・祝)図書・雑誌 3週間
- *2月6日(火)~2月12日(月・祝)視聴覚資料 2週間
- ※合計15点貸出可能(雑誌5冊まで、視聴覚資料は1点)

展示案内

2月1日(木)~3月26日(火)

◆一般書◆

「いろいろなお仕事、集めました」

◆児童書◆

「スタート★あたらしいトビラをひらこう」

ふるさと再発見! 講座

「引札から見た直方商店街の賑い」

日時:3月8日(金)10:30~12:00

場所:筑豊文庫資料室

講師:牛島英俊さん(直方郷土研究会 会長)

定員:25名【2月1日(木)より受付開始・先着順】

※詳しくは、館内配布中のチラシをご覧ください

2月29日(木)~

「直方の引札展」開催!



直方市山部 301-11

☎0949-25-2240

火~土 10:00~19:00

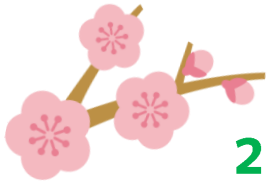
日・祝 10:00~17:00



Facebook



図書館 HP



2月

直方市立図書館カレンダー



★:筑豊文庫資料室 ♪:ユメニティ小ホール ◎:図書館前ロビー
◆:ユメニティ会議室 1・2 他:おはなしコーナー

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

- 2(金)10時~ 図書館おたすけ隊のお助け講座◆ ※要事前申込み
- 3(土)11時~ おはなし会(まほうの箱)
- 14時~ おはなし会(やまびこ会)
- 11(日)10時~ おもちゃ病院(受付13時まで)◎

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 2(土)14時~ おはなし会(ママりんご)
- 8(金)10時30分~ ふるさと再発見!講座★ ※要事前申込み
- 12(火)11時~ 乳幼児向けおはなし会(麦のこ)
- 15(金)10時15分~ 大人の朗読講座★ ※要事前申込み
- 16(土)11時~ おはなし会(赤ずきん)
- 14時~ 認知症カフェ図書館◆ ※要事前申込み
- 17(日)10時~ おもちゃ病院(受付13時まで)◎
- 14時~ おはなし会(れろの会)
- 23(土)14時~ おはなし会(ごくらくとんぼ)
- 14時~ 映画上映「梅切らぬバカ」77分(土曜シアター)♪
- 24(日)11時~ おはなし会(図書館職員)
- 30(土)14時~ ブラックパネルシアター(なのはな教室)♪

太字は17時閉館、■は休館
○はイベントがある日

『何度も作りたくなるストウブレシピ』 上島 亜紀：著/596カ

ストウブで作る料理が美味しい秘密は、ずっしり重いフタにあり！

食材の旨味を凝縮した蒸気が逃げることなく食材に降り注ぐことで、旨味や香りがじっくり引き出されて仕上がります。蒸す、煮込む、揚げたり炊いたり、様々な工程が鍋一つでできるストウブの全ての魅力を、使ったことのない方にも分かりやすく、保存期間やリメイク方法と合わせて紹介しています。(アキ)

『狛犬の佐助 ①迷子の巻』 伊藤 遊：文/K913イ

^{あけの}明野神社の狛犬には、狛犬を彫った石工の魂が宿っている。「あ」は親方で、「うん」は弟子の佐助。二頭は他愛のない会話をかわしながら、日々、神社を見守っていた。

ある日、佐助はひとりの青年を助けようと、親方の忠告も聞かず、石の体から抜け出し、神社を出て行ってしまふ。戻れなくなった佐助を助けに行きたい親方だが、どうしても動くことができない。あせるなか、ふいに抜け出すことができたのだが…。狛犬に魂をとどめる“ふた”の役割をしていたのは、親方にも意外なものだった。さあ、親方は佐助を無事に助け出せるのか？(maiakka)

『うるさいこの音の全部』 高瀬 隼子：著/Fタ

新人賞と芥川賞を受賞した早見有日^{ゆうひ}こと長井朝陽。有名な人になった彼女に、周りは勝手なことを言いたい放題。

微妙に変化する人間関係。周囲に気を使って、期待される(と想像すること)をつい喋ってしまう朝陽に「ああ、もう耳に蓋をして！口に蓋をして！」と言いたくなる。

朝陽の日常と彼女の小説の世界が重なり、更に芥川賞作家の作者自身とも重なりそうで、心がザワザワするけどページをめくる手が止まりません。(スタ子)

『無法松の一生』 岩下 俊作：著/Fイ

岩下俊作は、後年「無法松の岩下」と言われることを嫌ったという。他にも数々の佳作を残した

作者の自負からだったろうが、そして文学仲間の火野葦平も同様に評しているのだが、しかしやはり「無法松の岩下」なのだ。傑作なのだ。その「無法松」も読まれることはまれになってしまった。古びてしまった訳ではない。本書を披けばわかる。

何物をも恐れぬ暴れ馬「松五郎」が、心にフタして生涯秘め続けた思慕の情は切なく、それは決して過去のものではないだろう。

(キャラメル)

2月号のテーマ
ふた
「蓋」

『世界を救うパンの缶詰』 菅 聖子：文/K588ス

缶詰のふたを開けると出てくるのは、ふわふわで焼きたてみたいないい香りのパン。数年保存がきくこのパンの缶詰を発明したのは、栃木県のパン屋「パン・アキモト」の社長でパン職人の秋元義彦さん。国内の災害時に被災地で役立てられているだけでなく、世界中の災害現場や飢餓に苦しむ地域にも届けられています。

秋元さんが失敗しながら、それでも前向きに信念をもって仕事に取り組む姿に胸が熱くなる一冊です。(tm)

『町自慢、マンホール蓋 700 枚。』 池上 修：著/518.2イ

街を歩いていると、凝ったデザインのマンホール蓋を見かけることがある。このようなデザインマンホールは、1977年に沖縄で、下水道普及に向けイメージ向上のために、沢山の魚がデザインされたマンホール蓋が採用されたことを契機に全国で増えていったそうだ。

今では名所・名物だけでなくキャラクターまで多彩な姿を見せるマンホール。ぜひこの本でお気に入りを見つけて会いに行ってください。(ペコ)